

# 平成 22 年度 外部評価書

学校名	和歌山市立 宮北小学校
作成日	平成 23 年 2 月 21 日

## 1 教育目標

心身ともすこやかで、個性を生かし、自ら学ぶ意欲をもった豊かな人間の育成

## 2 学校の自己評価についてのご意見

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点 目標	これからの学校教育に、地域との連携が重要とされている時代であり、学校施設の開放だけでなく、情報公開は保護者・地域との連携を深める上で、大変意義があると考えます。	全国的には、いじめ、不登校が学校教育での深刻な課題であり、それをなくすための取り組みを重点目標にしていることは、保護者・地域にとって安心でき、また大変重要と考えます。	新学習指導要領による学校教育がスタートした段階であり、勉強がわかる、勉強が楽しいと子どもが思えることを、保護者は期待しており、これを重点目標としていることはタイムリーである。
取組 の状況 に対する 意見	文化庁が提唱している日本の古典芸能「能・狂言」を招聘し、各種方面の参加を呼びかけたのはじめ、学校行事の公開は、地域の人々の参加が容易になり、開かれた学校にする素晴らしい工夫・努力といえる。	特別活動(遠足)で、学年の枠を超えて、縦の集団で行くとか、全校活動として、なわとびやドッジボール大会を実施するなど、異年齢の子どもと触れ合う機会を設けたり、1年生が婦人会や、保育所との交流をするなど、心を育てる工夫がされている。	国も県も言語について取り組みを強化しているところであり、それに歩調を合わせた取り組みはありがたい。特に学力基礎となり、また心を耕す読書に力を入れていることに、保護者や地域も協力したい。
(評価 結果) 取組の 成果と 課題 に対する 意見	教職員が学校教育の敷居を乗り越え、地域に積極的に関わりをもっていることで、保護者、地域も学校への参加・協力体制がとりやすい状況が整いだしてきている。	あいさつができること、異年齢の子と積極的に係ろうとする子どもが多いこと、低年齢の子どもを大事にしようとする姿が目立つこと、これらが学校内だけでなく、地域でもその姿が見えることが素晴らしい成果といえる。	県の科学教育研究会等で、宮北小学校の教育活動を外部に発信している教職員の姿勢に熱意を感じる。保護者も、図書室のたたみ敷き化や、図書の充実、ボランティアによるラミネート張りなど、その改善・充実の動きなど、大きな成果を生み始めている。
改善 方法 に 向 け て の 意 見	年間を通じて学校開放月間といえる状況になっていて、学校と保護者・地域との連携が上手く機能し始めている。特に子ども見守り隊の活躍は目覚しく、あいさつを始め、生活習慣上での影響も多大である。この流れを今後一層継続・発展させていってほしい。	転出・転入児童が多い校区であり、人権に係わる指導が特に大事と思う。地域の方々も、子どもの名前を覚えて声掛けをするなど、いい雰囲気ができ始めている。一人ひとりに視点を当てた指導・取り組みを油断なく、今後も継続していってほしい。	学力は、学校だけに任せる問題ではなく、各家庭での基本的な生活習慣の確立からスタートして、多方面からの励ましによって大きく差が出るものであり、学校と家庭・地域が連携を密にして、今後も取り組んでいただきたい。

## 4 其他のご意見

大人(保護者・教職員、地域)が、それぞれの立場で子どものために最大限努力することが大切であり、そのためには仲良く、互いに信頼しあうことがポイントと考える。  
幸い、学校を核として、皆さんの努力で、今その信頼の輪が広がり、流れが深くなってきている。子どもたちに誇れる大人の姿勢、活動を今後も続けていきたい。